

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です) グループホーム ほのか

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とのつながりを大切に、自分らしく暮らす」という理念を、職員の話し合いで作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、問題や課題が出たとき、理念に照らし合わせ話し合いを行いながら、理念の実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居の際、重要事項に明示し、本人及び家族に説明している。ホーム内の見やすいところに掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	必要に応じて近隣住民に駐車場を開放し、お礼にお花や菓子をいただくこともある。来客者やご近所の方に、畑の採れたて野菜をおすそ分けすることがある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し毎月市の広報誌の配布を受け、ホーム内で回覧している。公民館の作品展に貼り絵や手づくりアクセサリ等を出品し、地域交流をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	知人や運営推進委員を通して、認知症ケアや介護サービスについての相談を受けたときは、適切な機関を紹介したり、ケアのこつについてアドバイスしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に分担して自己評価の記載をしてもらい、自らの実践を点検し、改善点について考える機会としている。外部評価の結果を受け、職員会議で改善点について話し合いより良いサービスの提供に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者の状況・活動報告・スタッフ関係等について報告し、意見を聞いてホームの運営についていかしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	対応困難な事例や苦情などについて、市の担当者に相談し、ホームの方針等説明し、適切な対応についてのアドバイスをしてもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて、職員間で各事業や制度等について理解を深め、職員会議や関係者に情報提供している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束廃止の研修会に交代で参加したり、虐待等の新聞記事などを題材に、職員会議で話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や自己負担の料金関係、退居についての要件は特に念を押して説明している。そのほか質問等にはわかりやすく説明し、理解してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも管理者、職員、介護相談員、面会者等に言える体制にあり、改善できることは迅速に対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時などに直近の状況を報告している。毎月ホーム便りを発行し、各個人ごとの近況報告を記入し配布している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の際意見を聞き、それを職員会議等で検討し、運営推進会議で報告している。いいづらい意見等は、ご意見箱の活用や、安中市、国保連の苦情受付窓口をご案内している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃の業務の中で色々な意見を集約し、職員会議で検討し取り入れている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況を最優先し、外出や通院など、必要な人員の確保に柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が維持できるよう人事に配慮している。やむを得ず職員の交代がある場合は、一時的に職員配置を多くし、密度の濃いコミュニケーションに努め、不安の軽減を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や資格等に応じて、段階的に認知症の研修を計画している。学習療法やタクティールケアなど認知症に有効な資料を取り寄せ勉強したり、職員各自の資格の取得を支援している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に加入し、各種研修会や相互研修を通じて、他のグループホームとの交流や情報交換を行っている。また近くのグループホームとお花見や納涼祭で交流をはかっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休日の取得や、職員親睦会の開催など、リフレッシュできるように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の業務の状況を把握し、研修への参加や資格の取得など、各自目標をもって業務に取り組めるように支援している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の生活状況を詳しく聴き取り、入居してからも困っていることを解消し、なるべく要望を取り入れた生活環境を整えるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の前後にわたり、家族からの聴き取りをおこない、家族と相談しながら、本人家族ともに安心できる体制を築いていく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ありのままの現状を受け止め、適切なサービスが受けられるようアドバイスしている。当ホームについても見学してもらい説明し、必要に応じて他機関を紹介することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームへの訪問をすすめている。入居当初は、家族や友人の面会を多くしてもらったり、外出や外泊の機会をもうけてもらうなど、徐々に慣れてもらえるよう努めている。本人の性格や生活状況等、職員全員で把握し、相談しながら過ごしやすい場所になるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長年培ってきたことや、得意なこと(料理・裁縫・野菜作りなど)を、職員が教えてもらっている。昔の地域のことをうかがう中で、共に過ごし支え合って生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	なるべく関わりを持ってもらえるように、外泊や通院、買い物など共に支える一員として協力してもらっている。家族と共に過ごした後は、楽しかった様子など思い出してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	適度な距離を保ちながら、外泊や外出、誕生日や母の日などを利用し、密度の濃いコミュニケーションが図れる機会を設けてもらうようにしている。必要に応じて、普段の本人の思いを、家族に代弁している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の交際や習い事など、できる限り継続できるように努めている。親戚や友人が気軽に来てもらえるよう、職員も顔なじみになり、親しく話をさせてもらっている。電話もかけたいときに、かけたい人へできるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡し役になり、円滑にコミュニケーションを図り、生活を共にしている仲間意識の構築に努めている。職員は各人の個性を理解し、何でも話せる雰囲気であると思う。	○	個性の強い人もいて、時々トラブルも発生している。認知症への理解やお互いに個性を尊重できるよう、上手に対処できるよう研鑽をかさねていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて面会に伺ったり、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるように声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、優しく言葉かけを行い、把握に努めている。言葉や仕草、表情などから真意を推し測ったり、さりげなく確認するようにしている。その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各人の生活歴や経験や出来事は、認知症のアセスメントにおいて、重要なポイントなので、本人や家族から聴き取り、なるべく今までの生活スタイルが継続されるように、その人らしい暮らしができるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の現状を日々把握し、毎月のカンファレンスで情報を共有し、自由に自分のペースで暮らせるよう、相談しながらケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族には日々の関わりで思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。月1回モニタリングを行い、カンファレンスで職員間で話し合い、それぞれの気づきや意見、アイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごと、又は状態の変化に応じて随時実施している。職員間で話し合い、本人、家族に確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に常に目を向け、個別の状況を記録し、カンファレンスで検討し、すべてのスタッフが共有し、計画の改善に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成20年5月より、空き部屋の短期利用ができるよう届けをしている。本人、家族の希望や状況に応じて、通院介助、送迎、買い物、入院中の洗濯等必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事故や緊急時対応として警察や消防署へあらかじめ協力依頼している。敬老会などの行事に歌や踊りのボランティアに協力してもらっている。公民館の作品展に出品させてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃から地域のケアマネジャーや事業所と情報交換を行い、必要に応じて通院介助のサービスを利用したり、デイサービスを訪問したり、他のサービス利用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携で、入居された利用者が居るので、定期的に情報提供し、権利擁護についての働きかけをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族に確認し希望に応じたかかりつけ医が継続されている。かかりつけ医との連携も図り、適切な医療が受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各自かかりつけの認知症専門医に受診の際は、日頃の様子を職員が手紙や連絡帳等で報告し、適切な治療が受けられるように、連携しながら支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制の下、ホームの看護職員が介護職と相談しながら、日常の健康管理や、医療機関との連携に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は職員や他の利用者が面会して励ましたり、早期に退院できるように、家族や病院と連携し・相談している。また、退院後の生活について医師の指示を仰ぎ連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。状態の変化に応じて、家族との話し合いを繰り返しながら、家族の思いに沿って支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の体制で、できる限り可能なことと、不可能なことを明確にし、その中で状態をよく観察し、担当医と密に連絡を取り、支援していく。今後の変化に備え、家族と話し合い、方針を決めていく。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	馴染んだ家具や愛用品で自宅に近い環境を整えたり、生活パターンや嗜好など細かな情報交換に努める。なるべく家族や友人と交流が継続できるような体制を整える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、言葉かけや対応等に配慮しながら支援している。記録等の個人情報に関しては、秘密保持の徹底を図るようにしており、職員へ就業規則で説明し、採用時の誓約書を取り交わしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	あらかじめ本人の考え方や嗜好を把握しながら、自己決定を尊重し、真の思いを引き出しながら、言いやすい雰囲気を心がけている。本人が納得した上で、自己決定できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、一人一人の状態やそのときの気持ちを大切に、本人のペースに応じて生活できるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する化粧品類を購入し使用している。現在は全員訪問のエステ&ヘアカットを利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるように支援している。自家菜園で野菜を育て収穫し、下ごしらえをする。調理、お茶を入れる、テーブルを拭く、かたづけ等、職員と利用者が一緒に行っている。毎月寿司の出前を取り、楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各人の好みや長年の習慣を大切にし、コーヒーの提供や、居室で好みの菓子や抹茶など自由に楽しむ人もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくおむつ等を使用しないで、トイレへ誘導するようにしている。やむを得ず使用する場合は、尿失禁用布パンツや、夜間のみ使用するなど必要最小限の利用を心がけている。本人の希望で、夜間居室でポータブルトイレを利用する方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応の設定日はあるが、希望があればいつでも入浴できる体制にある。毎月日帰り温泉に出かけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースでいつでも休息できるようになっている。夜間不眠の際も、安全に快適に過ごせるよう、又他の利用者の安眠を妨害することがないように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自家菜園で野菜を収穫、調理や野菜の下ごしらえ、洗濯の手伝い、モップかけ、テーブルを拭く、嗜好品(コーヒーや抹茶など)、ペットの世話、花見、ドライブ、果物狩り、日帰り温泉、カラオケ、詩吟等役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は4名の利用者が自分でおこづかいを所持している。職員が同行したり、買い物を頼んだりして、必要な者や欲しい物を購入している。おこづかいを所持していない方は、ホームで立て替え購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分に応じて、季節を肌で感じてもらえるように、散歩、買い物、お花見、果物狩り、ウッドデッキや玄関先でお茶を楽しむ機会を支援している。また、時にはお墓参りや、自家や子供の家への訪問、家族旅行等、家族や友人の協力で行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、お花見や果物狩りなど行事に取り入れている。お墓参りや子供の家への訪問、自宅への帰省や家族旅行など、家族の協力の下出かけられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに電話が設置しており、家族や友人に気軽に電話ができるようになっている。必要に応じて、職員が電話の取り次ぎをしたり、伝言をすることもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、自室や畳コーナーなどで一緒にお茶や食事をし、ゆっくりとくつろいでおしゃべりを楽しんでもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修会に順次参加したり、職員会議でも話し合いを行い、正しい理解と誤解を受けるようなケアはしないことを申し合わせている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関の鍵は極力かけない方向でいるが、利用者の状況に応じては家族に説明し鍵をかけるときがある。センサーを設置したり、見守りを行い安全面に配慮しながら施錠は常態化しないように努力している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者がどこで何をしているか把握していて、注意が必要なときはすぐ駆けつけられるような連携ができている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤類、刃物等の取り扱いマニュアルを作成し、未然に危険を防止する体制となっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応マニュアルや、ヒヤリハット報告を作成し、救急救命法の研修や消防訓練等を行い、未然に防ぐように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が救急救命講習を受け、急変時の対応や応急手当について迅速に対応できるようになっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と職員と一緒に防火避難訓練を行っている。避難誘導時の注意やアドバイス等を受けている。特に夜間職員1人体制の際は初期消火や通報、避難誘導と、近隣住民の協力が重要になるので、協力依頼をおこなっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	近況報告と共に、現在考えられるリスク等説明し、常に本人主体の生活が維持できるよう対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝晩にバイタルサインのチェックを行い、更に異常を見逃さず、自己判断せず、速やかに看護師に連絡し指示を仰いでいる。看護師は必要に応じて駆けつけ、担当医へ速やかに相談し指示を仰いでいる。定期的に受診したり往診してもらったりして体調を把握し、職員全員で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの指導の下、理解し把握している。確実に指示通りの服薬を複数で確認し、状態の変化は速やかに報告し、服薬の変更等は申し送りで指示している。朝・昼・夕・寝前と薬を分包し、職員全員がわかりやすい状態にしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く食材に取り入れ、水分補給に努めている。日頃から掃除や洗濯、歩行訓練など体を動かすようにしている。毎食の食事量や水分量、排便状況など記録している。それでも便秘の傾向にある場合は、主治医に相談している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員が口腔ケアを行う習慣ができています。歯ブラシコップは夜間消毒している。定期的に訪問の歯科検診を受け、口腔内や嚥下機能等の点検をしてもらい、必要に応じて治療や嚥下訓練が受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みの物を取り入れたり、嚥下状態に応じて食事形態を変え食べやすくしている。食事量及び水分量のチェックをしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、未然に防ぐよう努めている。うがいや手洗い、消毒、使い捨て手袋やマスクの使用、手すりやドアノブの消毒などおこなっている。来客者にも協力をお願いしている。利用者及び職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し、実行している。手洗いやアルコール消毒の徹底、調理器具の消毒や乾燥機の使用を行い、チェック票を付けている。自家菜園の安全で新鮮な食材を多用し、購入食材は必要量購入し、よく洗浄し早めに使用するなど配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターに季節の花、花木、ベンチを設置、ホールには季節の花を飾り、畳コーナー、ソファ、籐の椅子、だるま、金魚の水槽、犬、切り絵等飾っている。ウッドデッキでひなたぼっこやお茶会をしている。自家菜園で野菜を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天窗から太陽光も入る、自然な明るさを感じる空間である。手製の布カレンダーを飾り、季節の草花を生け、季節の飾り物(雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマス・お正月飾りなど)を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間がL字型で、ソファや畳コーナーがある。ウッドデッキには椅子があり休むことができる。また、自由に自家菜園に出られるようになっていて、草むしりや野菜の収穫をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、卓上テーブル、衣装箱、衣装掛け、バック、椅子、趣味の茶道具、乳液、化粧水等持ち込まれ、自分らしく生活している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の際に窓を開け換気している。各部屋は個別のエアコンを設置し、利用者の状況に応じて昼夜を通し、換気・温度設定をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差なくバリアフリーで、手すりを多く設置し、自由に安全に移動できる。また車椅子でも移動ができるような、ゆとりあるスペースである。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各人の能力や得意なことを勘案し、家事などに取り組んでもらい、自信を持って生活できるよう支えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に梅の木があり、自家菜園では季節の野菜の収穫を楽しんでいる。ウッドデッキや玄関先でひなたぼっこやお茶会を楽しむことがある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別の要望になるべく答えられるように努めている（食事の嗜好や個別の対応や処置など）。ほぼ一年を通して自家菜園で野菜を収穫し、新鮮で安全な野菜を食材に取り入れている。ウッドデッキや玄関から自由に菜園や庭に出ることができ、解放的な雰囲気であると思う。